

●カスミサンショウウオ観察会 2日(土) 日本生態学会が、3月17日(日)に神戸市のポートアイランドの国際会議場で開催されます。昆虫関係でご指導いただいた桜谷保之先生のお勧めで、中学2年生の中西康太君が研究発表の受付を済ませました。発表時間は11時からで、19番目で受理されました。発表内容は里山農園と木津川の両岸などでの二つの地域での観察記録を準備をしています。

桜谷先生によるご指導をいただきながら追い込み作業に励んでいるので、内容の充実や観察で調査で得た疑問に先生の助言をいただきました。午後からは自動測定器や自動カメラを設置したカスミサンショウウオの生息池の視察と観察を行いました。まだ少し産卵には早いようで、卵嚢は発見できませんでした。、昨年の豪雨や台風の被害で流れ出た土砂で池の面積が半分程度小さくなっている、溜まっている土砂の掻き出しの必要があると意見が一致しました。本格的な産卵期までには対策を講じたいと思っています。

●温度感知カメラでいろいろな映像撮影ができています。測定器を設置していただいた太田さんは、設置した21日以後毎日のように動作確認に出かけていただいています。4日朝に設置した捕獲檻にアライグマが入っていました。点検した市の職員が発見して、処理処分を行いました。池に降りた鳥らしきものにも反応して、4日のカメラには再びタヌキかアライグマか不明な生き物が池の周囲を歩き回っているのが撮影されています。捕獲されたもの以外にもこの時期この池で産卵がされると感じて出沒しているようです。1匹のアライグマの出沒の背景には、どれくらいの生き物たちがいるのか対策の基礎資料が不足していますので注目しています。産卵期を目前に控えたこの時期、早急な対策が求められています。6日の事務局会議での結果、まず担当自治体・京田辺市長に要望書などを提出し、経過を伝え、共同した保全対策の取組みができるようにしようとまとまり、早速2月6日午後2時に深田三郎前理事長、大釜智光木津川河川レンジャーそして山村武正(事務局長)の三名が要望書を京田辺市長に提出しました。

●駐車場整備作業(1日)を実施 午前中は東駐車場、午後は南駐車場で柵作りを行いました。利用申込数は昨年とは比較にならないほど問い合わせが殺到していますので、かなり広い範囲の整備が必要と考えました。利用可能な範囲の大草は年末に刈飛ばしてありましたが、背の低いものは成長も見られ、全面的な除草が必要でした。あちこちに生育している大きく高い桑の木の伐採と処分も必要です。そして不法投棄されているゴミも袋に10杯にはなるでしょう。大会が翌々日に迫っている、これらの除去と白線で入庫位置を示しておかなくてはなりません。除草した草がかなり重なって、白線を引いても明確な線になりにくく苦勞しました、翌日は雨が降って白線が消えてしまいましたので、手直しにも時間がかかりました。夜遅くまで作業いただいた皆さんご苦勞様でした。マラソン当日は駐車場関係では大きなトラブルもなく無事に終了。●午前7時に選手輸送の持ち場が開始 当日利用者ため京田辺市役所前での統合手配所には金田さん伊藤さん 東駐車場では深田福井大釜大村森島さん南駐車場では播川芳川早瀬中西さんが対応を開始。前日午後8時になっても駐車場利用の問い合わせ電話が続いていたので受入れ台数は最高300台を突破するかという状況でした。

●整備金負担駐車場利用者300台近くに迫る 東駐車場は満車になり当日の受入れ中止の事態になりました。また京奈和自動車道エイドステーションではエイドステーションの給水が底をつく事態が発生しました。同時に湯呑コップも欠乏してしまいました。スタッフの一人は、このような事態は10年間で初めてと話しています。何よりも必要な資材に欠乏が生じる、とんでもない事態直前でした。

手原川エイドステーションでは、バナナがほんの少し残るだけになっていました。雨やパンバナナチョコレートという食品がエイドで欠乏となるとこれは異常事態です。曇りで気温が上昇し、水分補給が追い付かなくなってしまったのです。エイドでは打つ手がありませんでしたので、スタッフによる声だけの応援となりました。予想を超える気温の上昇、そして15時以降は降雨になり、悪条件が重なりました。

●里山の会は、京都府が指定した「絶滅のおそれのある生き物」25種のうちカスミサンショウウオとレンリソウ・フナバラソウの3種について管理維持保全を行う団体に指定されています。とりわけカスミサンショウウオは10年ぶりに成体を発見し、その生育環境地の変化に関心を寄せてきました。ここに京田辺市長あての要望文を掲載

し、皆様のご理解と協力を頂きたく公表いたします。

京田辺市長 石井明三 様

2019年2月6日

NPO 法人 やましる里山の会 京田辺市田辺深田 理事長 播川 司

絶滅のおそれのある京都府指定希少野生生物カスミサンショウウオの保護対策の実施を求める申し入れ書

私共 NPO 法人やましる里山の会はカスミサンショウウオ保護のため、2018 年 12 月生息池西の急斜面に胸高 60 cm 高さ 15m のナラ枯れ木数本の伐採を行い生息調査観察時の危険除去を実施、2019 年 1 月 21 日に伐採木の除去と始末整理を行い、さらに生息池に周囲から倒れていた淡竹 100 本の整理を行いました。今の時期は、カスミサンショウウオの産卵時期を迎えようとしており、オスは池周辺に集合する時期で、その生態調査のため気温・水温・水位を測定する自動測定器「おんどとり」の設置を行い、同時に温度感知による動作カメラ 2 台の設置を行いました。その結果 1 月 26、27 日にアライグマが撮影され、京都府自然環境保全課に連絡し、そのうち京田辺市農政課によって、捕獲檻が設置されました。2 月 4 日にアライグマが捕獲され、処理処分を進めるとの報告の連絡が貴農政課からありました。京都府の「絶滅のおそれのある生き物」の貴重な生育池における貴農政課の機敏な対応に感謝するものです。

しかし、一匹の害獣は捕獲されましたが、生息池のカスミサンショウウオの生存のための安全度が引き上げられたとは言いきれないと私共は考えます。その証拠に同日 2 月 4 日夜に撮影されたカメラの動画ではタヌキかアライグマらしきものが写っています。

貴農政課に於いては、捕獲檻の貸し出しは、農作物への鳥獣被害への対応として運用されているものです。今回の対応は、カスミサンショウウオの生息池の防護としての捕獲をおこなうことを目的とした対応ではなく、申請に対してルールに従って行動したとしか理解できません。里山の会は今回の貴農政課の対応については、貴重な生き物カスミサンショウウオの産卵や生息の安全度アップのための捕食獣による被害減少を目的にしたものではないといわざるをえません。捕獲檻の貸借申請書に基づいて檻を貸し出し、それ以後の捕獲檻の設置と管理は、申請者によって管理すればよいとの位置づけにほかならないものとは理解できません。

害獣が 1 匹捕獲されたことは、カスミサンショウウオの生息池での産卵や生育が保障されたわけではなく、むしろ**危険度を証明する事件**であったとみるべきであると考えています。従って京田辺市として京田辺に生息する貴重な生物種の保護、育成のためにすみやかに対策を講じていただきたいと思います。カスミサンショウウオは産卵期を迎えているので、大至急対策を講じていただきたく申し入れます。

里山の会は、10 年前にカスミサンショウウオの卵囊発見以来、成体の発見に努力を重ね、昨年 1 月により早く成体を発見することができました。2018 年度には観測装置の実現により早くこぎつけ、設置するや否や、一週間もしないうちにアライグマの撮影ができました。撮影範囲以外に於いて温源を感知してカメラが動作している記録が残されてもいます。またまだ池に近づく生き物が多数いるということがうかがわれます。私共里山の会は、**池周囲を害獣から防護する根本対策が必要**と考えます。しかるべき対策を、大至急実行していただくことを切に要望します。

なお、カスミサンショウウオは 2 月中旬時期が産卵時期と考えられ、少なくともその一週間前にはオスの成体が集合し、その後メスの成体が来ると言われています。昨年の観察では 24 個の卵囊を発見しているので、少なくともメスの成体は 12 匹と推定できるということを申し添えます。以上

●2018 年度地域説明会 いよいよ 9 日から開始 井手町 勤労者福祉会館（上井手）展示物 100 枚掲示、語り継ぐ 30 年～南山城水害、井手町の証言を上映 腹話術で里山の会紹介 神戸市で開催の日本生態学会で発表の事前紹介（中西康太大住中学 2 年生）を予定、そして午後からは大正池や橘諸兄碑水害記念石の見学を予定しています。翌日 10 日は久御山町 中央公民館で展示 100 枚、ミニ講演会は宇治川決壊とその後の久御山町と題して、袖岡勝氏の講演。午後から木津川古道や排水機場・古川の見学を予定しています。続く 11 日は精華町の京阪奈記念公園研究室で 50 枚の展示、とミニ講演会として公園の取組み紹介を行います。現地見学は近松門左衛門（宵庚申）の主人公お千代半兵衛の墓を訪ねます。多くのご参加をお待ちしています。移動は自家用車が必要です。